

4) 施肥

11.1株/m²の疎植栽培でも、慣行の18.5株/m²と同じ施肥量であれば、収量は同程度確保され、玄米品質も同等である(図11、12)。

ただし、玄米タンパク質含有率がやや高くなる場合があるため、穂肥前の葉色が濃い場合は施肥量を抑える。

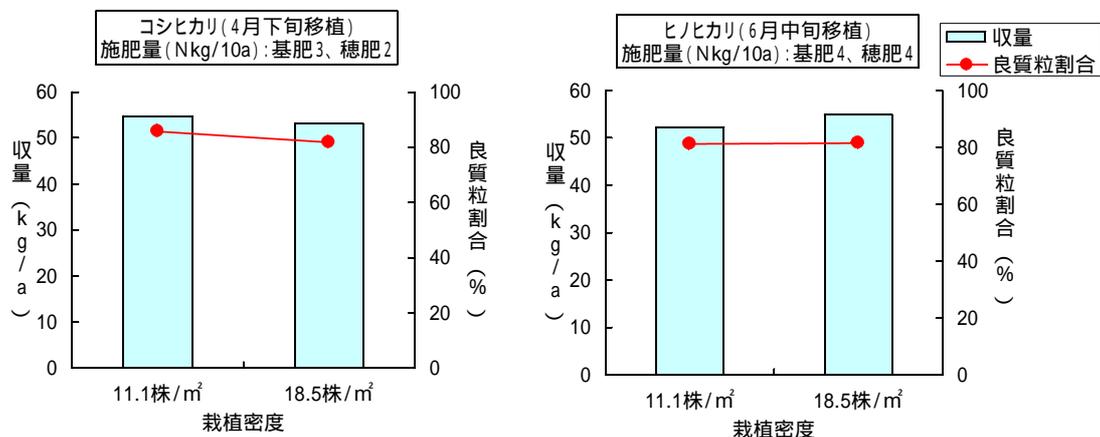


図11 同じ施肥量での収量、品質比較(基肥 - 穂肥分施肥体系)
注)2002年と2003年の平均値

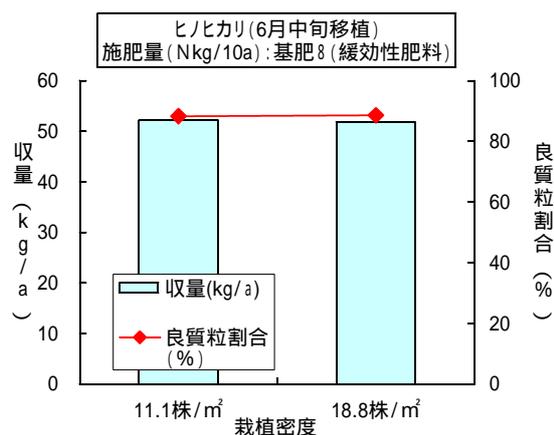


図12 同じ施肥量での収量、品質比較(緩効性肥料体系)
注)2000年と2001年の平均値

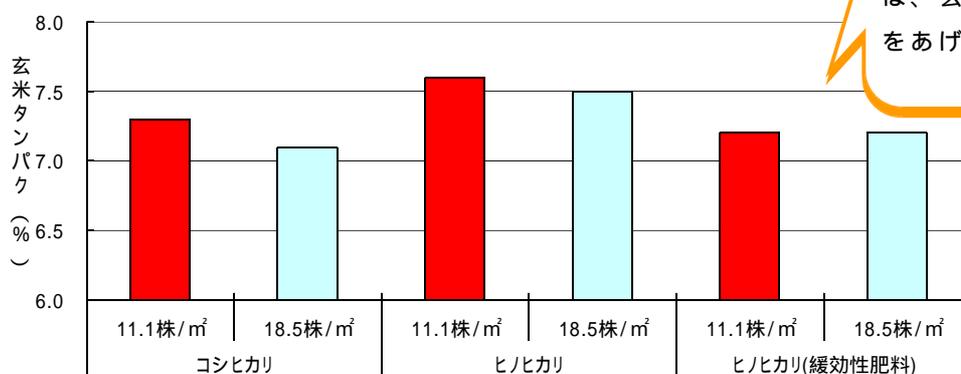


図13 栽植密度別玄米タンパク質含有率
注)ケルダール分析値、2002年、2003年の平均値

穂肥の多施用は、玄米タンパク質をあげる。